
旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定状況 住民説明会資料

2026年4月19日
東川町

住民説明会の開催について

町民と行政が一体となり連携し、活力と潤いのある町の未来を築き上げていくことの重要性を共有し、町民参加による町民主体の町民福祉向上のまちづくりの推進するため、行政懇談会（タウンミーティング）の開催など、対話と参加を重視したまちづくりを積極的に推進してきました。

現在、旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定に向け、懇談会を開催し検討を進めていますが、町民と行政がお互いの立場を尊重し、共に知恵を出し合うことにより、町民が主役のまちづくりを進めていくための貴重な機会として、現在の進捗状況について説明会を開催させていただき、直接ご意見をうかがいたいと考えています。

<本日の流れ>

開会

- (1) 基本構想策定の進捗状況説明
- (2) 意見交換

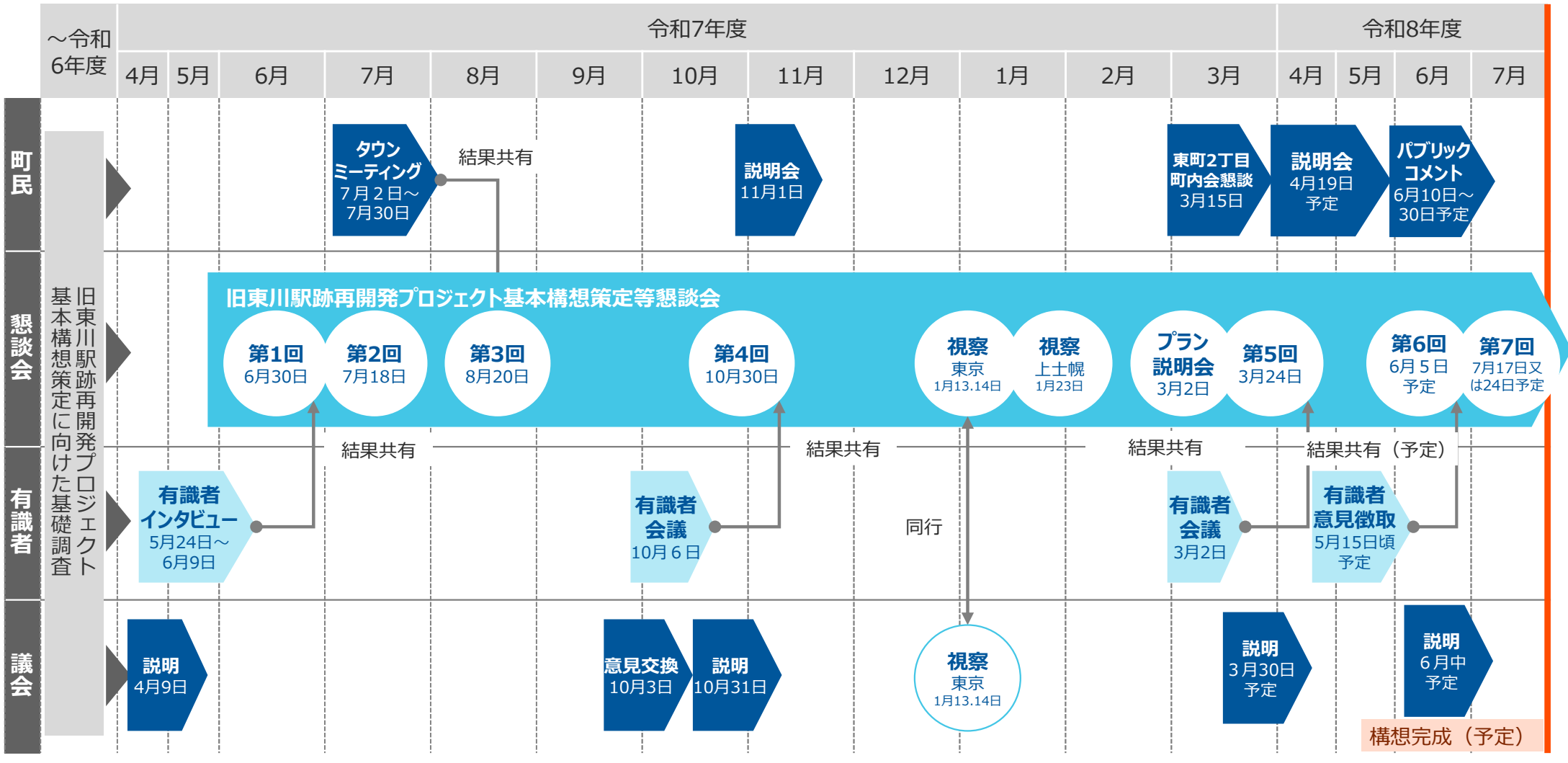
閉会



1-1. 検討プロセスの全体像

- 対話と参加によるまちづくりの一環として、本構想策定を進めてきた。
- 前回懇談会后、住民説明会、懇談会委員・議会等による視察、プラン説明会、有識者会議を実施。

検討プロセスの全体像



1-2. 懇談会の開催経過

- 現在、第5回懇談会まで終え、更に対話と参加を鑑みながら、7回目までに基本構想をまとめることを見込んでいる。

懇談会スケジュール（案）

令和7年度	第1回 (済)	<ul style="list-style-type: none">• 検討の前提として、駅跡再開発のねらいや懇談会の役割・ゴールについて共通認識を醸成する。• 有識者からの提言内容を確認した上で、まちづくりの課題（協働で取り組み解決すること）や自分たちの課題（自分たちが主導して解決すべきこと）について、ワークショップ形式での議論を行った。
	第2回 (済)	<ul style="list-style-type: none">• 農・商・観光・木工・教育・住民等の各分野で、自らの取組における課題を共有する。また、本プロジェクトや織田コレクションをはじめとする町の資源の活用により、それらがどのように解決できるか検討する。• ワorkshop形式での議論を行った。
	第3回 (済)	<ul style="list-style-type: none">• タウンミーティングの結果等も踏まえながら、各団体が抱える問題に対して、本プロジェクト／織田コレクションなどの町の資源を活用してどのように解決できるか、ワークショップ形式での議論を行った。• また、基礎調査で示した「基本理念」「本計画に求められる場の役割」の検証を行った。
	第4回 (済)	<ul style="list-style-type: none">• 第3回までに検討した内容を踏まえ、成果・効果の観点からねらい、基本理念、機能を整理した。• 5回目以降の議論の活性化に向け、空間イメージ形成に向けたワークショップを行った。
	第5回 (済)	<ul style="list-style-type: none">• 第4回までに検討した内容、プラン説明会、視察等の結果を踏まえ、基本構想骨子案（中間報告）を行う。• 基本構想骨子案（中間報告）の検証について、ワークショップ形式で行った。
令和8年度	第6回	<ul style="list-style-type: none">• 基本構想案に対する意見聴取と、今後のスケジュールを共有する。
	第7回	<ul style="list-style-type: none">• 議会説明、パブリックコメントなどを経て、最終的にまとめた構想案を提示し、最終確認を行う。

2. 基本構想骨子案

2-1.基本構想骨子案（要件整理）の考え方について

Atelier Tsuyoshi Tane Architects、隈研吾建築都市設計事務所からの提案、第4回懇談会における議論、既存公共施設の機能との関係を踏まえ、並びに有識者からの意見を踏まえ、旧東川駅跡再開発プロジェクトについて、ねらい・基本理念、導入機能、機能配置等の必要な要素を改めて整理し、「基本構想骨子案（中間報告）」として取りまとめるものです。

1.ねらい・基本理念

施設の方向性を明確にするとともに、町内の既存公共施設や、自然、産業、文化、暮らしなどの多様な地域資源と連携し、それらの価値を高めていくことを基本的な考え方とします。また、これまで整理してきた「ねらい」については、その内容を基本理念に包含し、施設の目指す方向性を一体的に表現するものとして整理します。

2.導入機能

機能の重複や分散を避けつつ、優先順位付け及び集約を行い、旧東川駅跡に求められる機能を明確にします。あわせて、既存施設との役割分担のもと、効果的な機能配置を図ります。

3.機能配置

町全体を学びと体験の場とする「町全体がデザインミュージアム」の考え方にに基づき整理します。旧東川駅跡は、文化創造エリア及び地域交流エリアという、異なる役割を担う2つのエリアから構成される公共空間として位置づけます。また、これらのエリアは、町内の既存公共施設と連携し、相互に機能を補完しながら整備・運営していきます。さらに、両エリアが交わることで、町民と来訪者、文化と産業、日常と非日常が交差し、相互の学び合いと新たな価値の創出につながる場となることを想定しています。

4.既存建物の活用範囲

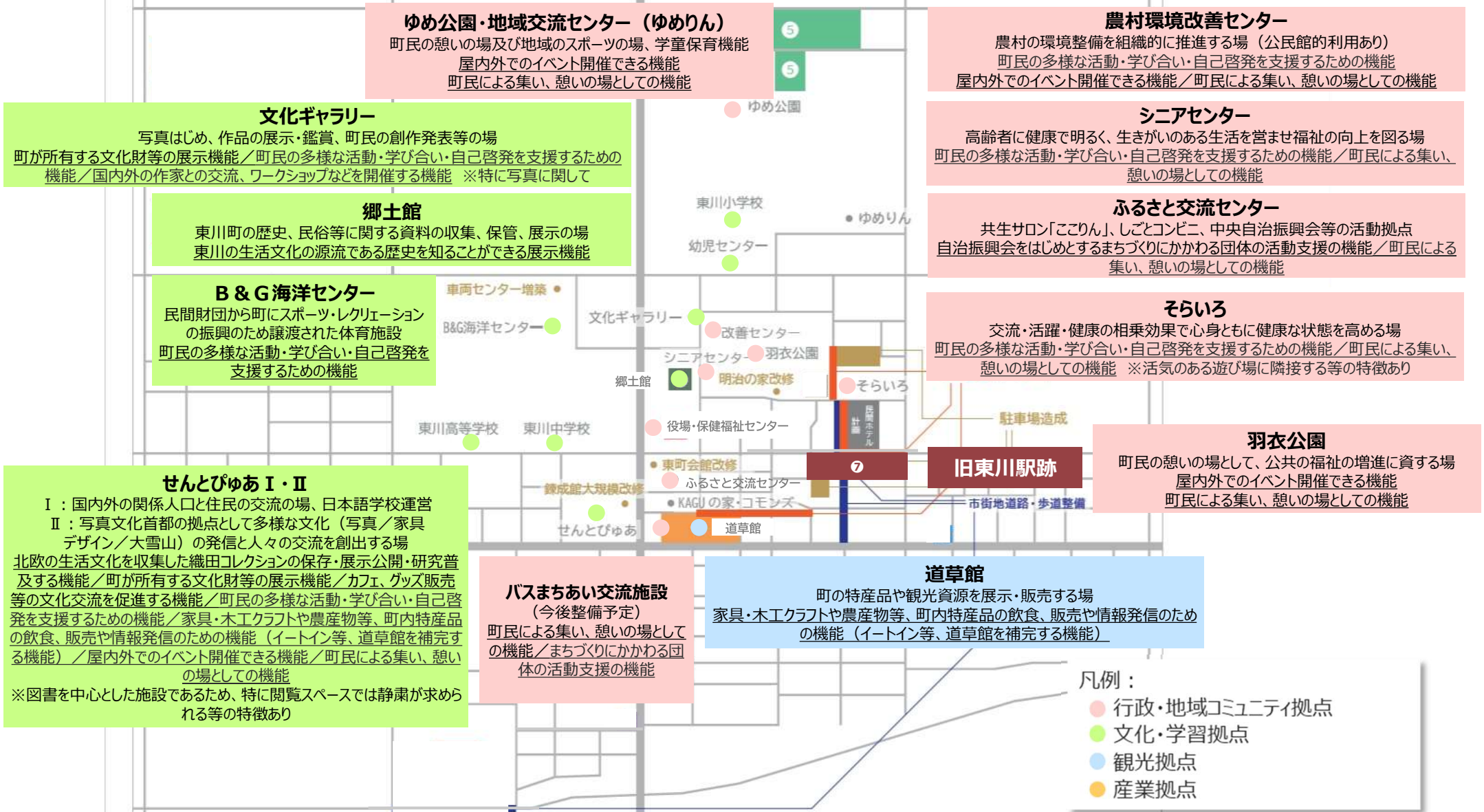
既存建物の活用については、第3回懇談会で示した方針のとおり、レンガ造・石造等、一定の歴史的価値を有する倉庫及びプラットフォームについては、原則として保存・活用します。一方で、既存施設では対応できない機能については、必要に応じて新築により整備し、歴史的資源の継承と新たな機能整備の両立を図ります。

5.事業規模

事業規模については、第1回懇談会で示した基礎調査における方針を踏まえ、既存倉庫の改修費の抑制や施設規模の適正化を図りながら、総事業費は35億円から37億円程度を現時点での目標とします。また、延床面積については、概ね4,000㎡以内で整理することを基本とします。

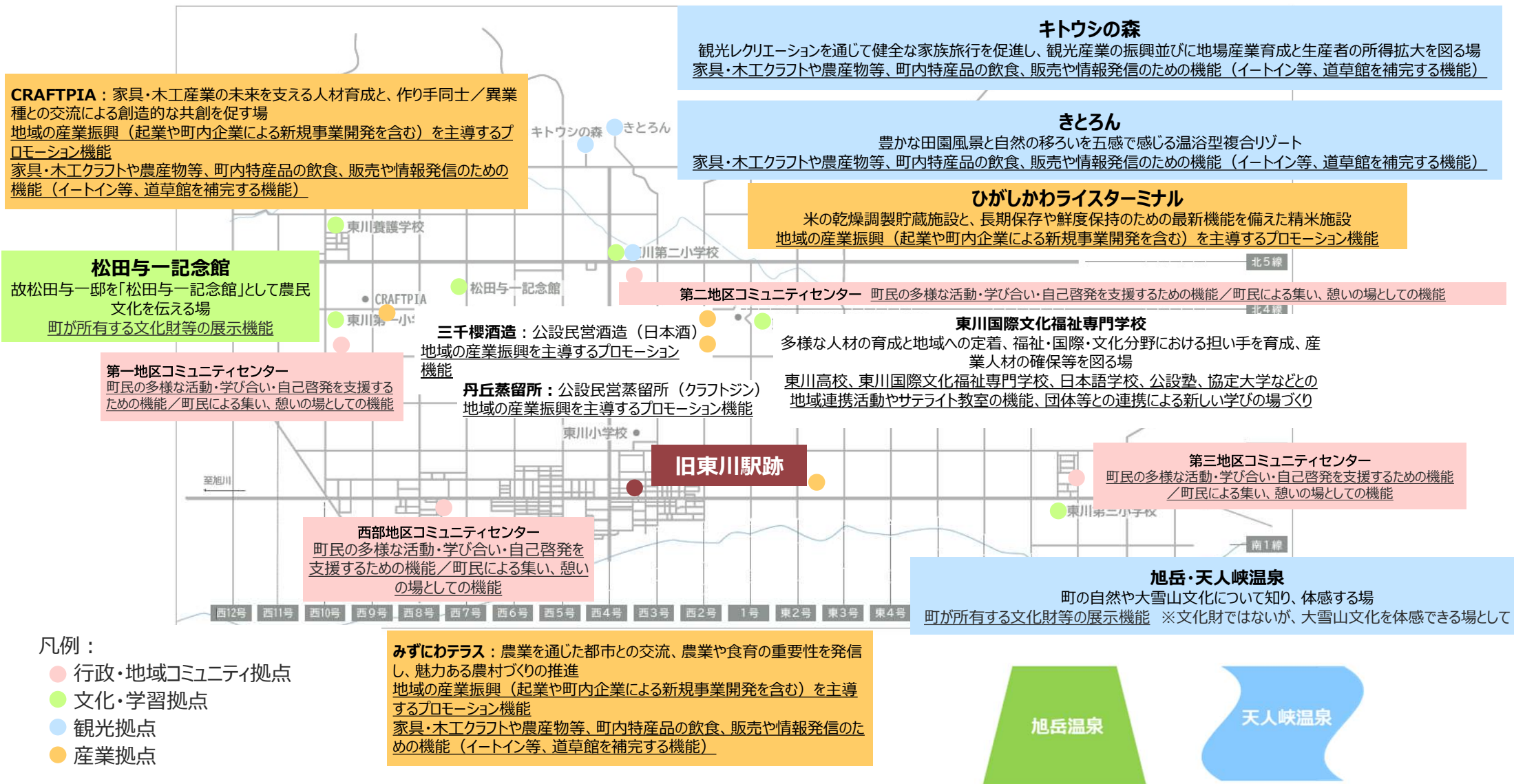
2-2. 機能配置の検証 | 「町全体がデザインミュージアム」：公共施設の連携の考え方

- 町全体をウォークアブルな学びと体験の場とする「町全体がデザインミュージアム」の考えのもと、旧東川駅跡に導入する機能については、町内既存公共施設が有する機能と役割を検証したうえで、これらとの連携・補完を基本としつつ、既存施設のみで十分か、新設及び充足すべきかを検討したうえで、まち全体としての機能の深化や相乗効果創出を図りたい。



下線で記載したのは当初想定した機能・コンテンツのうち、他施設での補完が考えられる事項

2-2. 機能配置の検証 | 「町全体がデザインミュージアム」：公共施設の連携の考え方



下線で記載したのは当初想定した機能・コンテンツのうち、他施設での補完が考えられる事項

2-3. 基本理念・導入機能（案）

- 旧東川駅跡は、今ある公共施設と連動しながら、町全体の環境や街並みとの調和の中で、「東川の歴史・文化・人の魅力に触れ、豊かな暮らしをつくる場所」として下記の機能を導入を見込むものとする。

基本理念（案）

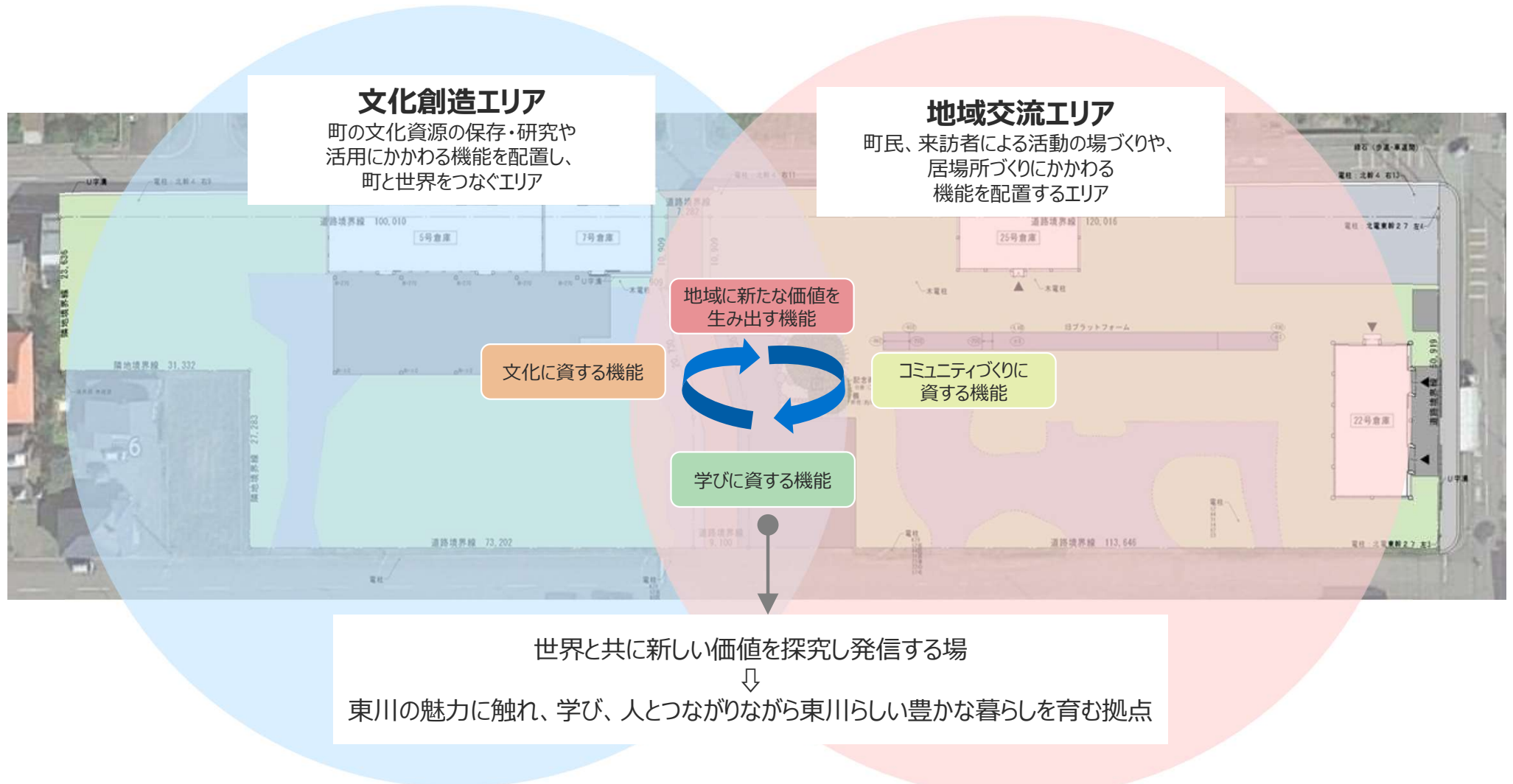
東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点

1. 東川の暮らしを支える、生活・産業・文化の歩みを学べる場
2. 多様な人々が地域の活動に参加し人と人がつながる場
3. 世界と共に新しい価値を探究し発信する場
4. 町民にとって日常的でかけがえのない居場所

導入機能（案）	コンテンツ
1. 文化に資する機能	<ul style="list-style-type: none"> 東川の暮らしの源流である生活・産業・文化の歴史等を知ることができる機能 織田コレクションを核として国内外との交流を促進し、新たな文化価値の創出につなげる機能
2. 学びに資する機能	<ul style="list-style-type: none"> 町内外の多様な主体との協働を通じて、体験・活動・学び合いの機会を創出・支援する機能 「学ぶ」「働く」「暮らす」ことを一体的に支援し、町への定住や新たな地域活動の創出につなげる機能
3. 地域に社会的・経済的価値を生み出す機能	<ul style="list-style-type: none"> 東川の産業の魅力を広く発信するとともに、多様な主体との連携により新たな価値を創出する機能
4. コミュニティづくりに資する機能	<ul style="list-style-type: none"> 自治振興会をはじめとするまちづくり団体の活動や取組を広く発信する機能 町民が日常的に集い、憩い、交流し、イベント等を行うことができる居場所機能

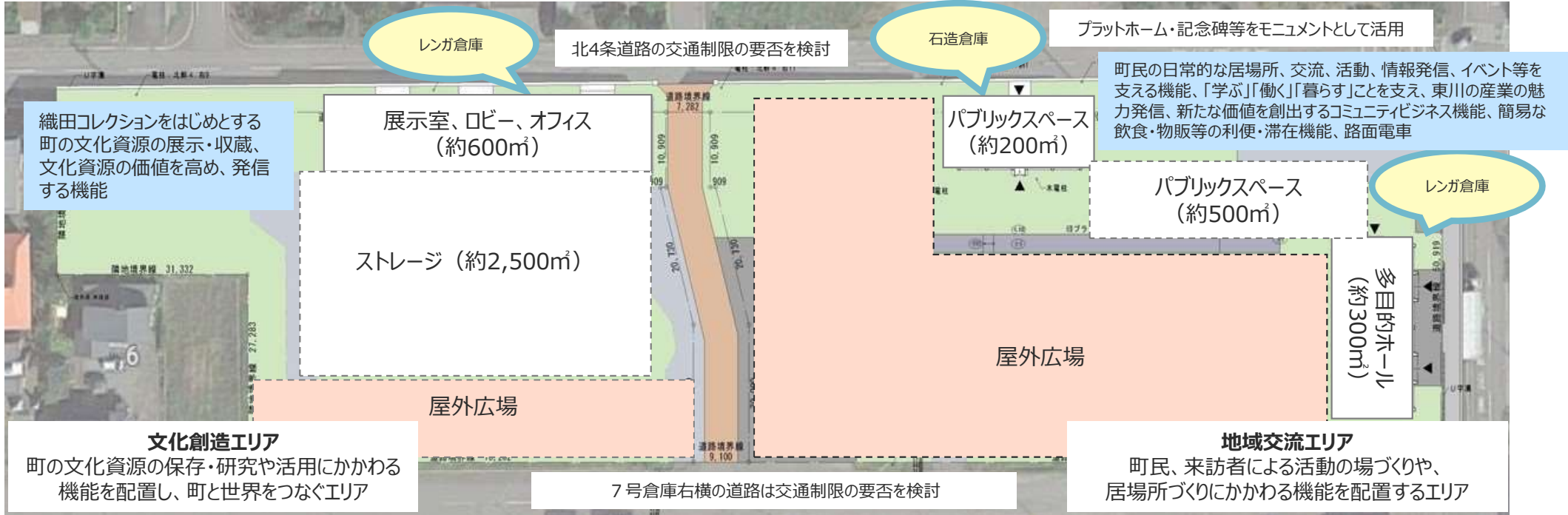
2-4. 機能配置の考え方 | 旧東川駅跡が果たす役割

- 町全体をウォークブルな学びと体験の場とする「町全体がデザインミュージアム」の考えのもと、旧東川駅跡は文化創造エリアと地域交流エリアの、異なる役割を果たす2つのエリアから構成される公共空間とし、関連する町内他施設と相互に機能を補完しながら計画・整備・運営する。
- また、両エリアが交わりあうことで、町内外の主体の相互の学びあいや、新たな価値が創出されると考える。



2-5. 機能配置の考え方 | 旧東川駅跡

※下図は第5回懇談会における検討材料として、機能配置や全体として適正な規模等に対する現段階の町の考え方を示したものです。各建物の位置や形状、面積等は未確定であり、引き続き検討を進めます。



エリア活用の方針（案）

項目	内容
プロジェクトの方向性	町の自然、産業、文化、暮らしなどを地域資源として捉え、町全体を学びと体験の場とする「町全体がデザインミュージアム」
機能・サービス	織田コレクションをはじめとする町の文化資源の展示・収蔵、文化資源の価値を高め、発信する機能、KAGUコンペ作品
	町民の日常的な居場所、交流、活動、情報発信、イベント等を支える機能、「学ぶ」「働く」「暮らす」ことを支え、東川の産業の魅力発信、新たな価値を創出するコミュニティビジネス機能、簡易な飲食・物販等の利便・滞在機能、路面電車
既存建物の活用範囲	レンガ造、石造等、一定の歴史価値を有すると思われる倉庫およびプラットフォームは原則として残す。既存倉庫で賄えないエリアに必要な機能については、建物を新築により整備をしていく。

想定する空間（案） ※実線は既存倉庫活用、破線は新設を想定

空間	想定する活用方法
ストレージ	織田コレクションを中心に、町が所有する文化資源を収蔵する。収蔵庫を公開する、収蔵展示の実施を想定する。
展示室、ロビー、オフィス	織田コレクションなど町が所有する文化資源の展示室や、ロビー、その他運営に必要な事務所等としての活用を想定する。
パブリックスペース	日常的な居場所として、町民の活動、交流、憩い、情報発信等での活用、「学び」「働き」「暮らし」ことを支え、東川の産業の魅力発信、新たな価値を創出するコミュニティビジネス機能、交流や憩いに資する範囲で、簡易な飲食・物販機能、路面電車の展示などを考える。
多目的ホール	各種文化活動、講演等での活用を想定する。
屋外広場	町民の憩いや交流、イベント等の場としての活用を想定する。

概算事業費（参考値）

以下の考え方によりイメージを整理した。あくまで現段階の情報や仮定に基づくケーススタディであるため、今後詳細検討する中で費用感は変化する。

諸元 既存建物を活用する場合の整備費単価は、別途実施した建物調査の中間報告結果に基づく

◆整備費（新設）単価 現況新築をした場合の㎡単価を780,000円とする

◆運営費単価 せんとぴゅあⅡをベースに運営費、事業費 ㎡ = 28,000円とする

◆整備費（既存）単価 既存倉庫の構造補強、建築工事費（電気設備工事費、機械設備工事費、屋根改修を含む。展示ケース等の購入費は含まない。）の㎡単価を1,604,000円とする。

◆外構整備費単価 ㎡単価は駐車場整備にかかる㎡単価を使用 ㎡ = 18,000円 ※プラットフォーム等の改修費は見込まず。

試算結果

◆新設 整備費 2,340,000千円 3,000㎡
 ストレージ 2,500㎡×780千円 = 1,950,000千円
 パブリックスペース 500㎡×780千円 = 390,000千円

◆既存倉庫改築 整備費 1,737,132千円 1,083㎡
 5号倉庫) 387.00㎡×1,604千円 = 620,748千円
 7号倉庫) 196.00㎡×1,604千円 = 314,384千円
 25号倉庫) 200.00㎡×1,604千円 = 320,800千円
 22号倉庫) 300.00㎡×1,604千円 = 481,200千円

◆外構 整備費 151,038千円
 (12,474㎡-4,083㎡) × 18,000円 = 151,038千円

◆設計費 整備費 140,000千円 ※基本設計、実施設計費

◆既存倉庫除却 事業費 165,000千円
 18号・車庫) 428.00㎡×110,000円 = 47,080千円
 14号・16号倉庫) 397.00㎡×110,000円 = 43,670千円
 38号倉庫) 170.00㎡×110,000円 = 18,700千円
 31号倉庫) 505.00㎡×110,000円 = 55,550千円



既存倉庫の改修費
 建物を新築で整備した場合の事業費
 1,083㎡×780千円 = 844,740千円を目
 標値とする

○事業費 整備費試算額(税込) 4,368,170千円①
 (新設、既存倉庫改築、外構、設計費の合計)
 既存倉庫除却費(税込) 165,000千円②

合計 4,533,170千円



事業費目標値
 3,640,738千円

年間運営費 114,324千円 (4,083㎡ × 28千円) ※収入見込まず